

【高山市会場】

1. 開催日時・会場

- ・ **日時** 平成14年10月26日(土) 13:30～15:30、小雨
- ・ **会場** 飛騨・世界生活文化センター 食遊館地下1階大会議室

2. 出演者構成

- ・ **コーディネーター**
竹内 ゆみ子 (NPO法人ソムニード・サンガム理事)
- ・ **地域づくり代表者**
大塚 則幸 (高山市在住)
大森 清孝 (高山市在住)
河渡 正暁 (高山市在住)
下梶 勝彦 (吉城郡神岡町在住)
田口 節子 (大野郡白川村在住)
平澤 外司来 (吉城郡宮川村在住)
松本 恵美子 (大野郡宮村在住)
- ・ **行政側出演者**
若林 陽介 (中部運輸局企画振興部長)
水谷 明大 (中部地方整備局建政部都市調整官)
藤原 勉 (岐阜県地域県民部参事兼地域政策室長)
- ・ **聴講者数**
計92名(男性71名、女性21名)
- ・ **会場風景**



3. 会議録

司会 定刻ですので、「まんなかビジョン討論会」を開催いたします。

本日は、土曜日のお休みの中、多くの皆さんにご参加いただき、ありがとうございます。私は、本討論会進行役の国土交通省の新村と申します。よろしくお願いいたします。

さて、国土交通省では、国民の皆さんと対話型行政を進めております。このたび中部地方のビジョンとして、「まんなかビジョンの中間取りまとめ」を行ない、皆様にご意見を伺っております。この「まんなかビジョン」に対して、高山会場を皮切りに中部地方の東海4県下8カ所で皆様からのご意見を伺うためにビジョン討論会を開催しております。

今回、ここが初めてということで、活発な討議をしていただき、実りある討論会にしていきたいと思っておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ビジョン討論会に先立ちまして、主催者側を代表して中部運輸局の若林部長よりご挨拶を申し上げます。

若林 本日は、まんなか討論会に、多数お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

今日は、コーディネータにNPO法人のソムニード・サンガム理事でいらっしゃる竹内様、そしてご発言の皆様には、飛騨地域で地域づくりにご活躍されております7名の方にご出演をお願いいたしております。本日はどうかよろしくお願いいたします。

また、行政側からは、国土交通省から2名、岐阜県から1名が参加をさせていただいております。

申し遅れましたが、岐阜県さんとともにこの会の主催をさせていただいております中部運輸局の企画振興部長の若林と申します。よろしくお願いいたします。

さて、この「まんなか懇談会」は、平成13年3月に扇千景大臣が提案した国土交通中部地方懇談会が契機となって設けられました。先ほど司会からご紹介いたしましたが、これまで、ややもすれば地域の皆様との対話がなかった。決める前に必ず伺う姿勢でやらなければいけない、その姿勢をきちんと示すことが大切ということを念頭に置いて設けられたものです。

そして、住民の皆様、経済界、県市町の皆様のご意見を幅広く承って、21世紀初頭における日本のへそである中部地方の骨格と地域づくりの具体的な姿を、「まんなかビジョン」という形で皆様と共同作業で作っていきたい、ということでこの懇談会を設立させていただきました。

地域の皆様は、タックスペイヤーとして私ども行政のおお客様です。カスタマーです。そういう気持ちを持って私どもこれまで、このビジョンの策定に当たっては各県の知事さんはじめ、財界、そして市町村の皆様から幅広くご意見をいただいております。そして、この8月に中間取りまとめという形で公表させていただきました。

本日、ここ高山を皮切りに中部地方8つの都市で討論会を開催させていただき、幅広いご意見を賜った上で、来年の春をめどに成案を得ていきたいと考えております。

日本の真ん中に位置する「へそ」である中部の生き生きとした暮らし、安全な生活を実現していきたいと考えております。

皆様と対話することをパブリックインボルブメントと英語では申していますが、その頭文字であるPIを、マスコットキャラクターとして「ピーちゃん」と私たちは言っています。このヒヨコはまだ殻をかぶっております。どうか皆様の力でこのヒヨコの殻を取ってあげていただきたいと思います。

今日は短いお時間でございますが、どうかよろしくお願いいたします。

司会 ここからの進行は、NPO法人ソムニード・サンガム理事の竹内様にコーディネーターをお願いいたします。

竹内 それでは、発言者の自己紹介から始めさせていただきます。

私は、NPO法人ソムニード・サンガムという海外協力団体の理事で、国内事業担当をしています。

海外協力といっても、インドの農村地域の地域おこし、村づくりをやっており、そのノウハウを日本で活かすために、国内事業担当として地域づくりに関わっております。

今日は、様々な地域との関わりの中で中部地区全体のビジョン策定に参加させていただき幸せを感じております。

それでは、それぞれの地域で活動されている方の自己紹介を簡単にいただきます。

若林 中部運輸局の若林です。今日は名古屋からまいりました。運輸局で交通、観光振興、また海運を担当しております。

今日は、活発なご議論、ご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

水谷 私は、国土交通省中部地方整備局の都市調整官の水谷と申します。主に、まちづくり、住まいづくり関係を担当させていただいております。

今日はしゃべり過ぎないようにということで、「私は〇〇から来た何々です」というようなルールを決めてあるそうです。地域づくり全体に関しては発言がしにくいので、私は国土交通省の中部運輸局と中部地方整備局が皆様の地域づくりにとって頼りになる存在になるといいと思います。

藤原 岐阜県の藤原です。この様な討論会を開かせていただきありがとうございます。

私は、県庁では地域政策室で地域に関連した計画づくり、それから、皆様方と一緒にいろいろな仕事を進めるという仕事をしております。特に、これからは「地方が一番だ」ということで市町村や今日お集まりの皆様方に是非我々行政と一緒にいろいろな仕事をやっていただきたいと思っております。参加だけでなく是非コラボレーション、協働で、いろいろな土俵の上で皆様方と一緒に仕事をしていきたいと思っております。

今日の発言者の中には、飛越協議会でもご意見をいただいております。これからもよろしくお願いいたします。

松本 私は宮村の松本です。私は、41号線、飛驒の道が地域住民にとって、もっと安全で安心して通れる道になったらいいなと思っています。

平澤 私は、宮川村の平澤です。私は田舎に住むことのこだわりから、「ど田舎おもしろ塾」を作り、活動しております。また、住民主体で作った「宮川村ふるさと村民会議」の仕事もしております。私は、心身ともに元気のある地域になったらいいな、そんなことを考えております。

田口 白川村の田口節子と申します。私は、村という行政体は最も直接政治の理想的な形と考えており、白川村が町村合併離脱宣言をしたことを大変嬉しく思っています。これから先は、小さ

な村がゆえに皆さんにわかりやすく知っていただける、そういうものを発信できればと思っています。

これから私たちが考えていくべき事は、そこに住んでいることの役割を考え、理解することではないか。それに基づいて我々の役割を果たすために何が必要かということを考えていければいいと。その一つとして、村が果たせる役割を発信していきたいと思います。

下梶 私は、神岡町から来ました。なったらいいなと思うことは、私たちの住んでいる地域がなくならないように、集落がなくならないようになったらいいなということを思っております。

河渡 高山の河渡正暁です。高山市文化協会に所属しています。9月30日まで高山市教育委員会に所属していました。また、高山市土野市長が主催する快適環境づくり市民会議にも所属しています。私は、これからは文化を重要視しなければならない。そして2つ目は、環境が大切。3つ目に教育行政が大切。この3つが地域に一番必要ではないか。

「まんなかビジョン」を遂行するためには、地域みんなと仲良し、周り仲良し。それがキーワードになるのではないか。

大森 高山市の大森清孝です。平湯温泉あるビジターセンターに勤めています。

高山国道のエコロード委員会で自然の対策を取るための委員会に所属しています。いろいろな動植物、野生の生き物と非常に深いつき合いをしています。野生の生き物には、行政区画は全く関係ありません。人間が勝手に引いた行政区画ですので、それに捕われずに広い見方で地域を見ていければいいかなと思っています。

地域おこし、地域づくりということで、自然と接するという観点からキーワードを考えてみたのですが、まず「よく知ること」が大切だと思います。知らずにものを言うことほど恐いことはないので、よく知ることが大切ではないか。人間が自然をよく知るためには、歩くスピードが非常に大切になってきます。普段は車で移動しますので、まず歩くということが大切だと思います。あとは歩く中での交流が大切だと思います。

そして、生活者の視点で出ていかなければいけないだろう。近年、高齢化社会になっているので高齢者の視点も大切だろう。

大塚 高山市の大塚則幸です。飛騨地域研究会というまちづくり団体に所属しており、建築設計事務所に勤めています。

私は、町が元気になるといいと思います。

竹内 ありがとうございます。自己紹介で私の中にキーワードとして残った言葉は、「地域がなくならないように」「よく知ること」「歩くこと」「交流、生活者の視点」です。

次に、大塚さんから地域活動をしている中で日頃感じていることや、自分たちの活動内容を3分程度で述べていただきたいと思います。

大塚 飛騨地域研究会は、高山の営みを色濃く残す空町にスポットを当て、飛騨人が持つ心と形を地域の人々と一緒に様々なイベントを通じて伝承することにより、地域の自信と誇りを呼び覚ますヒューマンスケールのまちづくりというようなことを行っています。高山市の東に昔は武家

屋敷であった空町という、寺町でもあるのですが、一帯があります。この辺が、高山の中でも高齢化率が激しくて30%を超えており、ある町内では35%という所もあります。ですから、当然空き家も出てくるわけですが、その空き家を活用して、公民館とか公共団体が作ったものではなく、地域の人々が自由に使えるコミュニティスペースという、自分たちで好きなように作り上げていく場を作りました。そこでは、地域の人々に一緒に地域のまちづくりについて考えてもらい、地域の人々の意見を聞きながら、一緒に地域の活性化を図っていくことを目的にしています。

高齢化率が高いということは、商店もないわけです。スーパーも郊外型になっていますので、独り住まいのおじいさん、おばあさんにとってみれば、買物も不便です。ほんのひとかけらの一助にでもなればということで、朝市の農家の方とかボランティアの協力者の方々に独立採算で出店していただく、第1、第3日曜の昼市ということからまずスタートしました。そこでいろいろな意見をお聞きしつつ、改装を重ねて何とかコミュニティスペースと言えるようなところまで持ってきました。

また、地域の高齢化によって七夕行事も途絶えていたので、今年の夏に、地域に流れる江名子川の河畔に笹竹を並べて地域の小学生、中学生に2,000枚の短冊を書いてもらい、結びつけて飾りました。そこに親と一緒に足を運んでももらえれば交流人口が増えるということで、少しでも活性化の一助になればと、そういう催しもしております。

竹内 それでは、今は高山市内から郡部に飛ばたいと思います。松本さん、お願いします。

松本 私は宮村の婦人会に所属しています。婦人会では、きれいな村にしようということで国道のゴミ拾いなどの活動をしています。また、宮村は神通川の源流ですので、下流に汚い水を流してはいけないということで、年2回、4月と8月に川掃除をしたり、米のとぎ汁をなるべく流さないようにボカシなどを利用して、きれいな水を下の方の人にも使っていただくためにみんなで努力しています。

そして、私は宮峠の麓に住んでいますが、41号線の宮峠はヘアピンカーブや急勾配が厳しく、とても危険な道路です。私は、ドキドキしながらあの峠を登っていきます。今度、宮峠を安全で安心して通れる道にしてほしいということで、宮峠や久々野地域の住民や各団体の人たちが集まって、「宮峠を考える会」ができました。地域住民の生活道路ですので、峠を何とか安心して通れる道にしてほしいということに関係団体に要請するために、地域住民一丸となってフォーラムを6月22日に開きました。私たち地域住民だけでなく、あの道がよくなれば観光客ももっとたくさん訪れるのではないかと思います、道がよくなることを願って活動しています。

竹内 ありがとうございます。それでは、平澤外司来さんに活動を紹介していただきます。

平澤 飛騨全体の各町村は、過疎、高齢化、若者の地域離れなどによって、地域の活力が衰退している。私の村もそういう状況が続いてまいりました。

特に、生活道路の国道360号は、雪崩や落石などによって頻繁に通行止めになりました。したがって、物流はもとより通勤・通学など、日常生活に大きな影響を及ぼしておりました。また、幅員が非常に狭く、大型車の通行がほとんど不可能でした。そういう状態が続き、年々元気のない地域になってきたのではないかと思います。さらに、そういう状態が続くと心の過疎が進行して、過疎に拍車をかけていく。

そこで、行政・住民一丸になって360号の整備をお願いし、近年大きな変わり方をしております。まず、360号を通行する皆さんに360号について聞きますと、沿道周辺の景観と環境が素晴らしいこと。四季の変化があり道路を通るときに感動する、そういう声をたくさんの方から聞きました。今、360号は安全で快適な道路であると皆さんにアピールできるような、そんな道路づくりが進められています。ですから、この道路を通ると「どこかで休んでいきたい。」そんな声を何人もの方から聞いています。

交通量が増加してくると、ただ道路が良くなればいいではなくて、通行する方々とどんな交流をしたらいいいのか、どんな利益を得ていくことが大事なのか、どんなことが提供できるのかと、そういうことを地域の人々が考えるようになりました。まず初めに手がけたことは、地域で採れたものを通行する皆さん方に提供する場を作りました。地域には、80戸ありますけれども、全部自前で物産販売の施設を作りました。そして、「よりみち」という名称をつけました。施設は、すべて地域住民の手で作り、行政からは何の支援も受けていません。地域住民が自らやる気にならなければ何もできない。そこが一番大事だと思います。

先週の日曜日も、朝8時から4時半までにそこへは車50台、人数にしまして100の方が立ち寄ってくれました。すごい変わり方をしているわけです。これによって、参加者の26%の方々が、非常に元気がみられております。「よりみち」は、地域住民の心のふれあいの場であり、物を作る喜びの場であり、それを売る喜びの場になったと思います。現在、参加者の皆さん方はとても元気を回復しており、次に何をやろうと、そんな意欲が出ている現状です。

竹内 ありがとうございます。それでは続いて下梶さんをお願いいたします。

下梶 私の住んでいる山之村という所は、神岡町の市街から20キロから25キロくらい山に登った所で、海拔が900から1,000メートルあります。そこに6集落があり、それを通称山之村と呼んでいます。そこには70戸ほど、230人くらいが暮らしています。高齢化率が50%を超すという、非常に過疎地域です。

私どもの集落は、昔は農業・林業で自給自足の生活をしていましたが、昭和に入って私たちの地域の中に鉱山が2つできました。その頃は人口も1,500人を超え、交通は不便ですが地域としての活力はありました。山之村も農業生産としてコメを5,000俵近く生産し、それなりの活力があったのですが、昭和30年代に入り鉱山が閉山し、農業では減反政策等により食べていけないというような状況になり、急速に過疎が進んでいきました。

このままでは集落の崩壊を待つだけと非常に危機感を持ち、行政に対して地域の核になるものを何とか作ってほしいといろいろとお願いしておりましたが、これはというものがなく今日に至っています。ところが、4、5年前に農業公園を作っている会社との出会いがあり、食材加工を中心とする農業公園事業が昨年度から行政の指導で着工されました。ひとつの核ができたことで、山之村を良くするために自分たちのできることを考えながら、自然を生かして四季を通じて多くの人に村に来ていただけるような地域にしたいとの思いから、山野村夢づくりの会というものを昨年の7月に作りました。

山之村にはキャンプ場はありますが、旅館は2軒しか無くしかも1軒は休業状態ということで、人が来てもらっても泊まる所がない。そこで、簡単に泊まってもらい地域の人々と交流できるような雰囲気を作りたいということで、農家民宿、いわゆるグリーンツーリズムを始めました。長野県の方も視察し、視察先の指導も受けました。そして、飛騨特有の板蔵を活用した板蔵体験

館という宿泊施設を今年の8月5日にオープンしました。これまでの稼働日数は15日、宿泊客数は60人です。数的に多いのか少ないのかよくわかりませんが、何も宣伝もしていない中で利用していただけた。あとは口コミ等で広げていけたらと、そんなことを思っています。

夢づくりの会では、緑の学校と称して10家族程度を対象に、最初に原木の菌打ちをやりました。お客様に楽しんでいただけるか心配でしたが、来たときには退屈そうだった子供さんが帰る頃にはすごく元気になって、後でお礼の手紙を頂いた時にはとても嬉しく、大きな励みになりました。それ以外にも、炭窯や木の実を使った飾り物工作などに取り組んでいます。

地元に仕事があれば、若い人が「居たい」と言っても住めません。農業公園事業を進めれば、地域の中で新しい仕事が増えるのではないかと。独居老人でも寄り合いながら暮らして行ける組織ができるのではないかと、そういう期待感を持って農業公園事業を進めています。

竹内 非常に深い問題であり、今までの都市と農村の価値観に関わる具体的な事例ではないかと思います。次は河渡さん、お願いいたします。

河渡 私が昭和45年の学生時代に、東京で高山出身であると自己紹介したとき、高山には電気があるのか、ランプしかないでしょうと言われました。また、高山は長野県かとも言われ悔しい思いをしました。あの頃から、道路の発展なくして地域の発展なしと思い、道路が高山という地域が発展するための一つの要因だと思っています。

私は、飛騨は一つで歴史と文化が共通であると思います。だから、市町村合併を進め、地域が一緒になっていれば総合学習に関しても環境教育に関しても一つの方向づけができたと思います。子供たちに対しても、正しいものの見方や価値判断をインテグレートできたのではないかという気持ちを持っています。

今、地域はハードからソフトの時代に来ています。ソフトとは、「人づくり」のことです。まちづくりも教育なのだ、人材育成なのだという感じがします。例えば高山で「やんさフェスティバル」というものがありました。みんなが元気を出さなくてはいけない。子供たちも先生たちも地域の人も元気を出そうということで開催しました。フェスティバルの開催を通じて発生する人と人との交流が教育の基盤であり、地域の活性化の基盤であり、そういうときに絆が生まれて来ます。

最初の話に戻りますが、以前は「道路の発展なくして地域の発展なし」ということでした。基本的に発展の基盤はハードだったわけですが、それが人づくりというソフトになってきている、というのが私の考えです。

竹内 ありがとうございます。それでは、白川村の田口さんお願いいたします。

田口 白川村には、ディスカバージャパンの頃から合掌造りということでたくさんの方が来てくださるようになりました。そこへ世界遺産の登録ということも加わり、4～5年前までは年間60万人くらいだったお客様が今では160万人になりました。それもこの3年間でなりました。

東海北陸自動車道の整備によって、私たち住民は生活が大変便利になりました。鼻歌を歌いながら冬の道を目的地まで行けるといふ、この安心感、幸せ感は、他地域の人にはお分かりいただけないかもしれないと思うくらい嬉しいことです。

しかし、道路整備などによって多くの観光客が訪れるようになり、村の産業構造、社会構造が

大変大きく変化しました。それに伴って、従来から地域が持っていた力がどこかに置き去りにされてしまったと、10年くらい前から感じています。

私は戦後間もなくの生まれですが、私たちの両親の時代には、近所づきあいの中で非常にセキュリティに満ち溢れた生活をしていました。しかし、私より10年くらい若い世代になると、そういう感覚がなくなってきています。最近の試算では、退職してからの老後に夫婦で8千万円ほど生活費が必要という話がありました。私たちはまさしくその当事者になるわけですが、とても負担できる話ではありません。昔のようにセキュリティに満ちた地域になれば、コストの安い生活が加納になると思います。それを、私たちのような小さな村の、多少まだ地域力の残っている所で実現していきたいと思っています。

かつて結婚式、葬式、祭など村の行事は全て村の人が担っていました。例えば結婚式では、企画、運営から後片づけまですべて村の人でやっていました。それを子供たちが見ていることで、教えられなくてもひとつのプロジェクトを進めるにあたり、その準備などがどれほど大変かということ、無言のうちに学ぶチャンスが大変多かった。今、子供たちの社会へのデビューはいつだろうかと考えると、それを行事にあてはめることは非常に難しいと思います。白川村の場合は、結婚式のときにいわゆる三三九度のお酌をする雄蝶雌蝶という役があるのですが、これが子供たちの社会へのデビューの第一歩です。もっと小さな行事では、「ほんこ様」という1年の収穫に感謝する行事があり、それが各家庭で行なわれておりました。「ほんこ様」のときは、子供にも一つのお膳が与えられ、きちんと社会の一員としてそこに座らせてもらうことができました。そういう場面で、子供たちも自分の将来がある程度イメージできる環境にあったと思います。

でも、今のお子さんたちはなかなかそういうチャンスがなくて、自分の将来像とかそういうものをイメージできない。情報的に偏った情報しか入らない。そういう状況にあるような気がします。地域というのは非常に広範囲な要素を持っていますが、そういうものを白川村が持ち合わせている情報の中で少しずつ形にしていこうと思います。

竹内 ありがとうございました。

大森 先ほどキーワードということで、「知る」「歩く」「交流」ということを申し上げましたが、その3つのキーワードに沿った形でお話します。

まず、「知る」については、過去の地域おこしは公共事業が非常に大きな役割を果たしました。その中で、自然について知ろうとせずに開発をしたという非常に寂しい現実があります。近年は、まず知ってから対策を取って進めるというように切り替わってきている段階だと思います。これからの道路づくり等では、よく知った上で対策を考えて進めてもらえんと思います。

地域づくりでこれから必要なのはハードよりもむしろソフトだろうと思います。例えば、高山市の横丁の見直しでは、野良猫が自由に歩き回るような路地を紹介する猫道マップができないかと考えています。そこを歩くと、ここはサンマを焼いているとか、ここは焼飯をやっているとか、昔ながらの生活、本当に生活の匂いのする、生活感を感じることができるのではないかと思います。

もう1つ、下水道が整備されて宮川が非常にきれいになり、かじ橋やなか橋という町の真ん中の橋の下でヤマメの1年魚が泳いでいます。もちろんヤマメだけでなく非常に魚の種類は多い。ですから、例えばかじ橋あたりで水の中に水中カメラを沈めて、ライブで町中で見られるようにしてやるとかそういった発想もあっていいのではないかと。また、カワガラスも営巣しており、営

巢する場所にカメラを仕掛けてやるとか、そういったライブ映像を流すことで、自然がこんな町中にあるんだよという発信ができるのではないかな。

また、高山祭りが昔とはずいぶん変わってきています。昔を知っている人がいる間に、昔の祭りの姿を取り戻した方が良いのではないかな。本来の姿を見直すというか、そんなことがあってもいいのではないかな。知るという観点からはそういうこともあるのかなと思います。

次に「歩く」という観点からお話しします。来年で10年目になりますが、名古屋から金沢まで250kmのウルトラマラソンというものを行っています。コースを全部下見して最初に気づいたことは、歩道が整備されていないことです。歩道のある所も、小間切れで全然連続していません。道路整備は、あくまで物流のための整備だったのですね。しかし、高速道路がこれだけ整備され、国道も整備されてきたら、次にやるべきことは生活者の視点に立った道路整備だと思います。

その意味で、例えばウルトラマラソンのコースでもいいのですが、250km全部片側にずっと連続した歩道があるとか、そうした整備があってもいいのではないかな。メリハリのある整備を是非やっていただきたい。

歩くという観点からもう1つ。飛騨地域はスキー場も多いのですが、スキー場というのは冬だけのものです。町中の空き家と一緒に、機能してない設備というのは非常に寂しい感じを与えます。ですから、春から秋までスキー場を活用できる場にしないといけないと思います。今、中高年の山歩きがブームですので、例えばスキー場のリフトを通年運用することで、辛い思いをして歩くのはイヤだという中高年の山歩きの愛好者も利用できる仕掛けをすることも一つのアイデアだと思います。

「交流」ということでは、こういう話では大体地元の人だけが集まって話をして終わってしまいます。なるべく他の地域との関わりを持つような仕掛けをして、例えば「よそ者、若者、ばか者が必要だ。」というようなことを耳にしますが、そういう仕掛けを是非我々からも発信してみんなが進められればと思います。

竹内 ありがとうございます。優しい語り口で厳しい意見が出たと思います。
それでは、「中間報告的なまんなかビジョン」について担当局から説明をいただきます。

司会 パンフレットについて説明させていただきます。我々の住む中部は日本の真ん中で、日の丸弁当の梅干のような地域だと思って表紙を作りました。梅干1つでこの中のご飯を食べるのは非常に大変です。21世紀をおいしく食べるために、皆さんのご意見をお聞かせいただき、この日の丸弁当を賑わいのある幕の内弁当にしたいと考えています。

次に、ビジョンでは、まず1番目に、「中部の目指すべき方向」ということで、これから以降7つの大目標を掲げています。その目標を1番の所で掲げております。2で1の目標を解説する文章をつけています。

3番目で、目標を思い浮かべていただくために、現在の状況や理想とするイメージの写真を表現しています。この写真で7つの方向がイメージできる形を考えています。

5番目に重要なことを書いています。5番目は「アウトカム目標」といって、従来はとにかく道路を何キロ作るというような、いわゆる結果、アウトプットの形でお伝えしていましたが、これからは作ること自体を目的とせず、その結果どのような効果や成果が表われるかというような、いわゆるサービス水準の視点的な表わし方をしています。

6番目は「アウトカム指標」として、5の目標がどのくらい実現できたか、達成できたか、業績

を評価するための数値目標や状況の変化の一例を示しています。

7は、目標に対して皆様と考えていただくための行動や方針を示してあります。

このような見方で、真ん中の写真を見ていただくことを主眼に置いていただきたいと思います。では、7つの方向について1つずつ簡単に説明をさせていただきます。

I番目は、「モノづくり産業の国際競争力の強化」です。現在、日本の国際競争力が低下していると言われています。自動車産業等、特に中部はモノづくりの優位性を確保してきましたが、今後も中部は日本のモノづくりの中心であり続ける必要があると考えています。

II番目は、「世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」です。地域が発展するためには、その地域の拠点に活気を生み出すことによって人が集まり、情報が集まり、物が集まり、経済も発展します。地域が発展すると、近隣地域にその利益が広がっていくと考えておりまして、この高山市も飛騨地域の拠点都市として、飛騨地域の発展のためには拠点都市をアップグレードすることが必要と考え目標としています。

III番目は、「東海環状都市圏、環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」です。私たちの日々の活動は、すべて交流によって成り立っていると思います。通勤、通学、買物、レジャー、すべて交流であると言えます。これらの交流が地域の経済活動あるいは活性化の原動力となっていることは言うまでもありません。しかし、今までの交流だけでは限界であり、新たな交流が必要だと考えます。したがって、環状道路等新たな交流が必要と考え、目標としています。

IV番目は、「日本の真ん中である優位性を生かし、国土の東西南北軸の再生や交流拠点整備による日本内外の交流の促進」です。先ほどの目標が、比較的地域内の交流であったのに対して、この目標は国内外を問わず広い範囲の交流を目標としています。今や東西の大動脈、東名なども動脈硬化を起こしつつあり、それらを健全な状態で維持し、経済活動に有効に活用することも考えています。

また、この地域は日本海と非常に近い関係にあり、環日本海との交流も拡大するという意味も込めて南北軸の形成が重要と考えています。

V番目の目標は、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを生かした地域づくり、観光振興」です。中部には、非常に豊富な自然・歴史・文化の資源があります。これらの資源を守り育てることはもとより、活用しながら地域の発展を目指すとともに、今後は新たに創出していくことも必要と考え目標に掲げました。

VI番目の目標は、「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」です。私どもの生活の中で最も基本的な目標だと思います。今後、少子高齢化は着実に進んでいきます。また、お年寄りなどは、大変不自由な生活をしておられ、福祉などもまだ不十分だと感じています。より豊かな生活環境を目指し、これを目標としました。

VII番目は、「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」です。日本の国土は災害に対して非常に脆弱です。さらに中部地方は、東海地震など大規模な地震が想定されており、自然災害の危機にさらされているという状況です。

尊い生命や財産を守るための備えを早急に実現することが必要と考え、この目標掲げました。

以上7つの目標ですが、これらの目標や指標がすべてだとは思っていません。広く皆さんのご意見を聞きながら、より多くの人たちに納得できるように幕の内弁当にしていきたいと思っていますので、十分のご議論をお願いいたします。以上で説明を終わります。

竹内 ありがとうございます。

それでは、アンケートがお手元にあると思います。本当に素晴らしいビジョンですね。これが実現したら何といいことだと私も思います。

司会 お手元のアンケートの封筒の中に白い紙とグリーンの紙があります。この紙に、先ほどご説明しました7つの方向、7つの提案に対して、皆さんの住んでおられる地域として何が一番重要かということをも1つ、その番号をお書きいただきたい。白い紙の方は、中部地域全体として何を取り組むべきかということで、同じく番号を1つお書き入れいただきたいと思います。写真を見ながら、感覚で書いていただければ結構です。

竹内 それでは、1つだけ選ぶというのは大変難しいと思いますが、あえてお願いしたいと思います。緑の方は、飛騨地域にいる私たちがこの7つの中からどれだと思うかということだそうです。それから、もう1つは中部地域で、もう少し広い視点で書いていただければということです。今までは、行政の方が全部答えを提案し、説明して私たちがチェックし文句を言うという立場だったのですが、これでは国づくりはできないと国の方がお考えになって、まだできてないときに皆さんの意見を反映しようという、当たり前ののですが、非常に画期的なことなのです。途中段階で私たちの意見がこの様に反映されるという、そういう会議ですので、是非皆さんのアンケートをよろしく願いいたします。

司会 集計まで少しお時間をいただいて、ビジョンについてご議論いただければと思います。

竹内 この素晴らしいビジョンについて、皆さん全員というとな時間がなくなりますが、ありましたらご発言下さい。

大森 非常に素晴らしいビジョンだとは思いますが、カタカナ語は日本語にさせていただけると非常にありがたいです。

竹内 カタカナ語をできるだけ日本語にさせていただけないだろうかと。私も同感です。P I といって説明されているのですが、これは簡単に言えば住民参加ということなのですね。あんまりわかりやすく言うとまずいのかなとも穿って考えますので、できるだけ私たちにもわかりやすい言葉を使っていただきたいと思います。

平澤 私自体がこんなビジョンが作られていることは全然知りませんでした。中身を見せていただきますと、大変ご苦労願ったなという、そういう感じを受けております。

このビジョンを見て感じたことは、7つの項目がすべて私たちに関わりがあるのだと考えてみたいと思います。ですから、名古屋の問題は私たちに関係ないということではなくて、私たちにとって関係する7項目であるということを理解していかなければいけない。そして、その理解によって国土の均衡ある発展を図っていくことが大切ではないか。そのためには、都市の人と農村部の方々との交流が積極的に推進されていく。そんなことを私は願っております。

したがって、まずこの5つの県に関わる県民はこのビジョンを理解し、そして、これが地域にとってよりよいビジョンとなるような形で進められていくことを私は願っております。まず役所で今日のようなこういう機会を持たれたということは画期的な、今までには考えられなかった今

日一日ではなかったか。そんなことを思っております。

竹内 ありがとうございます。

河渡 僕らも交流する中で東京の大学の先生と知り合いになり、来春調査で学生さんと一緒に地元に来るということです。確かに平湯トンネルは立派になったが、松本からのアクセスが非常に問題がある。飛騨全体を考えた場合に、これは早急に改善していくべきことではないかと実感として思います。

高山周辺の道路整備についても、町村の間で差があるのではないかと。そういったことがないように、県と県の境ですごく違ってしまわないように、全体を国が見ていただくのが一番良いと思います。

竹内 そのための「中部まんなかビジョン」だろうと私は思います。もし今の発言に対して行政側の方で、お答えすることがありましたらお願いします。このビジョンは、中部全体を対象とするビジョンですので、そこに私たち飛騨の人が参加することに非常に意義があると思います。大きな地域を対象とする構想に、一地域住民の意見を反映させるということは、今までなかったことのように思います。こういう会議そのものも、行政としては初めての取り組みだそうです。

若林 全くご指摘のとおりです。こういう機会を設けて地域の皆様の声を直に伺う機会が、竹内先生の仰るように、なぜ今までなかったのか。そういうことの積み重ねが、昨今の私ども行政へのいろいろなご批判につながってきたのではないかと考えています。何と申しましても行政のお客様は、地域住民の皆様です。そのお客様の声を聞かないで商売になるわけがありません。今日は、これだけ生の声を聞かせていただき、本当にありがたいことだと考えております。

竹内 今のは中部運輸局の若林さんの発言です。私たちからすると「あれっ？」と思いませんか。「あんなに言っていたのに？」と。初めてだそうですね、地域の私たちの声を聞くのは。結局まだ始まったばかりなのです。本当に歴史的な会議に私たちがいると思っていいくらいに、国レベルでいくと画期的なことなのだそうです。それだけ地域住民と国と現場とが離れている。それにやっと気がついていただいた。だから、今気がついて始めれば遅くないというわけですので、今日はそういう集まりだったということをは是非皆さんに認識していただきたいと思います。

では、先ほどのアンケートの結果が出ましたので、発表させていただきます。
緑色に書いていただきましたアンケート。どこが1位だったかといいますと、Vです。「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを生かした地域づくり、観光振興」というのが60票でトップでした。2位が、VIの「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」。これが25票です。3位が9票で、VIIの「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」。これは飛騨は割に安全だと自信を持っているのかなという結果ですが。4位が、IIIの「東海環状都市圏、環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」。これが4票です。5位は1票ですが、IIの「世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」。これが飛騨地域が望む、このビジョンの中で最も重要だと思うということの結果です。

それから、中部地域で見たときは、飛騨地域で見たときとはやっぱり違いますね。28票でIVが1位です。「日本の真ん中である優位性を生かし、国土の東西南北軸の再生や交流拠点整備による

国内外交流の推進」。これが中部地域で見たときのトップになっています。2位が、Ⅶの「東海地震、災害に強い安全・安心な地域づくり」で25票。3位がⅥで12票。「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」。4位がⅢで10票。「東海環状都市圏、交流の拡大」。5位はⅠで9票。「モノづくりなど産業の国際競争力の強化」。6位がⅤ。飛騨地域だとトップだった中部の豊かな自然環境というのが、中部地域で見たときには後ろの方になっている。7位がⅡの「世界都市としての名古屋」。そういう順位です。

これをどのように見るか。飛騨地域は中部圏に入っていないと見るのか。これは優先順位だろうと私は解釈しましたが。まずは自分の所からやってくれと。同じ予算だったら飛騨地域からだということの表われかなと。そのように私は読みましたが、皆さんはいかがでしょう。

それでは、どなたか会場の方からもご意見を伺いたいと思います。

聴講者 私は、飛騨については、この順位は飛騨でいち早くやってほしいという意味ではないと思います。7つの項目は、この地域に住む人たちが全体に大事なことで、たとえば言えば都会の人たちに飛騨へ来ていただいたときに、飛騨にそういう魅力がなかったら来てくれません。飛騨には、すばらしい魅力を持つ資源がたくさんあるから、私たちはこれを大事に守り育てながら、都会の方々に提供していく、共有していく。そういう考えが私は強いと思います。だから、決して飛騨人だから飛騨に関わることを早くやってくださいという意味ではないと私は理解しております。

竹内 ありがとうございます。飛騨地域の人たちは心の広い人が多い。目標が、まさにそういうような飛騨地域だ、重要だという意味に受け止めているという発言でした。

聴講者 今の結果ですが、飛騨地域の観光は、これは地域の思いがあって、これを除外すると生活と災害が飛騨も中部も2位、3位です。この地域は、やはり生活と災害というものが、年齢も関係なく、ここに定住する人たちの思いであると思います。行政側と住民側をどのように共存させ組み立てるかということを開きかけることが、今回のチャンスだと思います。岐阜県は南高北低と言われるくらい予算も人口密度が違いますが、飛騨地域全体は広大な地域ですので、グランドデザインというものを大きな目で見て「中部の中の一画である」という認識で見つめるべきであらうと思います。

竹内 ありがとうございました。では、発言者の方にそれぞれお聞きしていきます。

大塚 今のアンケートでは、交流の推進が広域的にはあげられていますが、それが進むと「地域らしさ」というものがだんだん失われていきます。それを何とかして守り育てなければいけないという意識で、Ⅴ番がこの地域としては最重要だということはすぐわかります。情報がものすごく早く行き渡るようになっていきますので、建物も地域に根づいた建物がどんどん失われてきています。白川村でも合掌造りだけが白川村の建物ではないですし、高山の三町通だけが高山の地ではない。そのアイデンティティを持っていないと、日本国中どここの地域も全く同じ建物や、どこの国の建物かよくわからないような建物がはびこっていく世の中になっていきますので、地域としてのアイデンティティみたいなものを住民の方が持ち続けていかないと大変な世の中になっていくと思っています。

竹内 ありがとうございます。

河渡 中部全体を見た場合、私は名古屋にいるならばやはり、モノづくりが中心になるのではないかと思います。そのモノづくりについて、私の思いを述べたいと思います。

2000年3月より放映されているNHKの「プロジェクトX」というのを皆さんご存じだと思いますが、あれはモノづくりから得た感動体験物語です。成功体験でもあるわけです。人間はものを作ることによって夢が出てくる。NHKは、若い世代が心配ということであれを放映したと聞いています。トヨタさんだけ中部地方にマザーファクトリーとして残っていますが、他の企業はほとんど中国や東南アジアへ行ってしまい、マザーファクトリーが国内に無くなったことが、一番日本をダメにすることになるのではないかと私は思っています。私は、大学を卒業して日立製作所に勤めました。当時、工場には2,500人いました。今は700~800人くらいしかいないと聞いています。昭和49年のあの時、どんどん物が売れた時代。やはり、ああいうときには夢があったんだなと思います。

これからも大きなテーマは、作るということだと思います。教育でも、先生が作り出す授業でなければ子供もついて行きません。ハードからソフトへ、ソフトが地域を盛り上げる時代になっている。人育て、まち育て。環境を作る。思い出を作る。そして、筋道を立ててものを作る。そして、人と人との関係を作る。作るということは全部プラス思考になって行きます。地域も教育も、一生懸命さが必要になってくるのではないかと思います。

竹内 ありがとうございます。

田口 私の村の人口は2,160人です。今春の県の人口統計に基づいて計算しますと、たぶん10年を待たないで60歳以上の人数と20歳から60歳までの人口が拮抗するようになります。まさしく私たちの世代が、高齢者層になるわけです。私たちの世代というのは、車をよく運転する世代です。それが10年後、15年後に高速道路を今と同じ感覚で我が物顔で走るようになるわけです。今、高速道路を走る70代の人の割合は、おそらくそんなに問題にならない数字だろうと思いますが、10年後、15年後になると高速道路を走る車に占める高齢者の比率が相当高くなるのではないかと想像されます。そうしますと、今の安全基準、今の規格で果たして大丈夫なのだろうか。そういう不安を感じてしまうわけです。

飛騨では、高齢社会に対応する地域づくりをお願いしたい。私たちは、名古屋へ行こうと思えば直ぐに行けます。金沢へも白川から1時間で行けます。そういう感覚で私たちはこれから20年間生活していく。その20年を考えたときに、お互いの間の交流を担うだけの基盤・道路をこれから作っていく場合に、特に高規格の道路ほど高齢運転者の問題を抱えてくるような気がします。そういう視点でこれからの道路づくりを行なっていただければ、私たちが年をとったときに安全に走らせていただけるのではないかと。そんなふうに考えております。

竹内 ありがとうございます。

松本 私も高齢者のことを考えると、宮峠は渋滞がひどいので、緊急車両のことがとても不安になります。年寄りや子供を病院に連れて行くとき、もし渋滞に会ったらどうなるのだろうと、よ

く思います。事故があると1時間から1時間半は、通行止めみたいな状態になります。宮・高山間は迂回路がないため、41号線以外には高山に行けません。できれば迂回路を早くつけてほしいと思います。

地域のことを考えたら、V番の文化や歴史が重要です。各地域に文化があると思うので、それらを大切にしていけることが、地域が活性化したり自分の村のよさとか、飛驒のよさを失わずにいけるのではないかと思います。

竹内 ありがとうございます。時間が来ておりますが、もうお一方くらいは発言できますので、どうぞ。それから、もう一つ画期的なことは、これが決まってから普通ならば10年とか20年、同じもので目標を目指すのですが、今回は、見直し作業が割と短期間にある。どんどん変化を入れていく、そういう計画づくりです。他にご意見が無ければ、大体アンケートの結果に集約されているということでしょうか。

それでは、ちょうどいい時間になりました。皆さんの協力のおかげで、よい意見が出ましたし、行政の方も地域のために自ら活動している人がいるということ、生の声で知っていただけたのではないだろうかと思います。

こういう小さな活動が一つの見本になって、大都市にも住民参加ということが広がっていけばいいなと私も思いました。今はコミュニティの時代で、どんなに大きい国でも結局は個人の集まりですよ。個人の集まりの一番小さいところに地域社会がありますから、地域社会が元気にならなければどんなに大きなビジョンを描いても、それはたぶん元気なビジョンにはならないのではないだろうか。小さなコミュニティの活動が、大きなビジョンの中にどのように位置付き、繋がっていくかということが、これまでは見えなかった。あまりにも大きな所が、小さな世界を見ようとしても見えなかったということの結果が、今にあるのではないかと思います。

ですから、私たちは一人ひとり、小さな地域で生活していますが、そういう活動をどのようにこのビジョンに生かすことができるだろうかという、今回はその第1回ですが、その方法の一つだと思います。参加するということは責任も伴いますが、それを抜きにはやっていけない時代になります。PIではなく住民参加、過程に参加ことが住民参加ですが、まさに過程に参加させていただいています。そのことも踏まえて、飛驒地域がどうあるべきかということ、これから一緒に考えていけたらと思います。本日は本当にありがとうございました。

司会 竹内さん、ありがとうございました。

それでは、ビジョン討論会の閉会にあたり、主催者を代表して中部地方整備局建政部の水谷都市調整官よりご挨拶を申し上げます。

水谷 本日は本当にありがとうございました。コーディネーターをお願いしました竹内様、大変な仕事をお引き受けいただきましてありがとうございます。また、発言者の皆様にはそれぞれのお立場から貴重なご意見を賜りました。これからのビジョンの取りまとめ、あるいは我々の行政に生かしてまいりたいと思います。

それから、聴衆として参加いただいた皆様に対しまして、改めてお礼を申し上げたいと思います。今回の企画では、直接発言をいただくことはなかなかできませんでしたので、欲求不満というような形になったかもしれません。こちらの企画が到らないところがございましたらお詫び申し上げます。

本日の討論会の結果につきましては、議事録を取りまとめまして、広く地域の皆様にお知らせしていきたいと思います。また、中部地方整備局あるいは岐阜県にも、ホームページへの掲載とか、地域の広報紙などへの掲載もお願いしながら、広く広報を図っていきたいと思っております。

それから、討論会でいただきましたご意見については、ビジョンのアウトカム指標、地域の生活がこれから具体的にどのようによくなっていくのか、どの様に変わっていくのかという目標設定をしながら我々は仕事をしていかなくてはいけないということでございますので、そういった目標設定の具体化に向けて反映させていただきたいと思っております。

本日の討論に限らず、今後もいろいろな立場から我々の仕事にご意見を賜りますことをお願いいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

司会 これで「まんなかビジョン討論会」を終わらせていただきます。

以上